



第58回書玄展・第8回公募書玄展

と き:令和4年5月3日(火)～8日(日)

と ころ:愛知県芸術文化センター8階J室

本年は「岡本太郎の芸術」をテーマに、役員の大作から会員・公募の小額作品まで合わせて182名の作品を展示しました。

岡本太郎といえば、張り裂けそうに眼をむいて「芸術は爆発だ」という独特なパフォーマンスで有名です。また、縄文土器も岡本太郎を語る上で重要です。

考古学的な価値だけでない縄文土器の美しさを発見した太郎の美術論を、作品に昇華した加藤裕代表の大作「青春」が壁面中央からパワーを放ちます。平野芳碩の「心とは」の心の文字がダイナミックに紙上を舞い、阿部秀峰の「火焰土器」

は太郎の爆発について語ります。太郎をイメージした後藤啓太の「至疆」、鈴木紅瑤の「眼玉」、溝口子静の「破」、幾井翔風の「發」と、少時数の作品にも太郎の人間味ある強さが表現されました。

太郎の芸術論を多字数で前衛的に表現した大作や、激しく意欲的な表現の役員・会員作品が並ぶ壁面と対峙するように、緩やかに湾曲した壁面には会員と公募の小額作品群が放射状に配置され「まるで、太郎の爆発をイメージさせるようだ」と、来場者の皆様から好評をいただきました。

入場者数1,271名と沢山の方々がお越し下さいました。来場者の中には、北海道、関東、関西と遠方からのお客様もあり、恐縮しつつ大変嬉しく、ご来場いただきました全ての方々に厚く御礼を申し上げます。